

学力向上に効果のある取組事例

国東市立国東小学校

⑪小学校教科担任制の推進

取組の具体①

教科担任制による学年部組織の充実

○専門性の向上

- ・指導教科が絞られ、より深まりのある教材研究を行うことができるため専門性が高まる。
- ・教科の系統性を考慮した計画が立てやすく、前学年でのつまずきを補充できる。
- ・複数学級での授業実施により、指導方法及び評価方法の改善が図られる。

○多面的・多角的な児童理解

- ・学年部を通して教職員が情報共有や意見交換を行い、指導方法・支援方法を一般化し、児童の安心感を醸成する。
- ・複数の指導者で児童の他教科で見せる「隠れた強み」を発見し児童理解に繋げる。

これまでの認識と事実のズレから課題をつくる。



取組の具体②

わくわく授業改善の3ステップ

1. 「やりたい！」（導入・単元構想）

- ・学習意欲が十分ではない子どもも「これならできそう」と思える単元の出口を可視化する。ズレをもとに、課題を設定する。

2. 「なるほど！」（確かな支援・習熟・板書の工夫）

- ・大事な言葉の共有化、思考の流れがわかる板書、友だちとの意見交流、個別の支援で全員参加の授業づくりにつなげる。

3. 「わかった！」（終末・ふりかえり）

- ・振り返りの視点を確認し、友だちと振り返りを共有することでお互いに高め合う。

複数体制で授業をサポート



「振り返り」の視点を掲示。

全員参加の授業づくり
友だちとの対話的で
深い学びへ

1時間の学びを
確かなものにして
いる

取組の具体③

ICT研修を気軽に

- ・ICTに堪能な教職員による月2回の「教職員のためのICTサークル」を実施し、互いに気軽に学び合う時間を確保してきた。教職員のスキルアップを図るとともに、児童の興味・関心を高める教材研究・指導方法の工夫にも活かされている。



月2回の教職員によるICTサークル